

令和 8 年度内閣府青年国際交流事業 日本参加青年の募集・選考について

令和 8 年 6 月

内閣府青年国際交流担当室

募集・選考の概要

- ✓ 募集は、3事業について2か月間にわたり実施。**複数事業の併願は不可**とした。
応募要領にて求められる資質・能力について明示するとともに、SNSを中心とした広報を効果的に実施。
- ✓ 選考は、**新たに三次選考（個人面接及びグループディスカッション）を導入**し、多面的に評価を実施。

募集

- ・ 期間：令和8年2月16日（月）～4月17日（金）
- ・ 対象事業：国際社会青年育成事業、日本・韓国青年親善交流事業及び「東南アジア青年の船」事業
- ・ 方法：応募フォームへの登録＋参加申込書の提出。複数事業の併願は不可。

一次選考

- ・ 期間：4月下旬
- ・ 方法：書類審査

二次選考 ※全面オンライン

- ・ 期間：4月下旬～5月中旬
- ・ 方法：ウェブテスト＋個人面接＋英語グループ面接

三次選考 ※対面又はオンライン（原則として対面）

- ・ 期間：5月下旬
- ・ 方法：個人面接＋グループディスカッション

※ 令和7年度は第2希望まで併願可（日本・中国青年親善交流事業及び「世界青年の船」事業についても募集あり）

※ 英語グループ面接は、国際社会青年育成事業（実務経験者枠での応募者を含む。）及び「東南アジア青年の船」事業の希望者に対して実施。

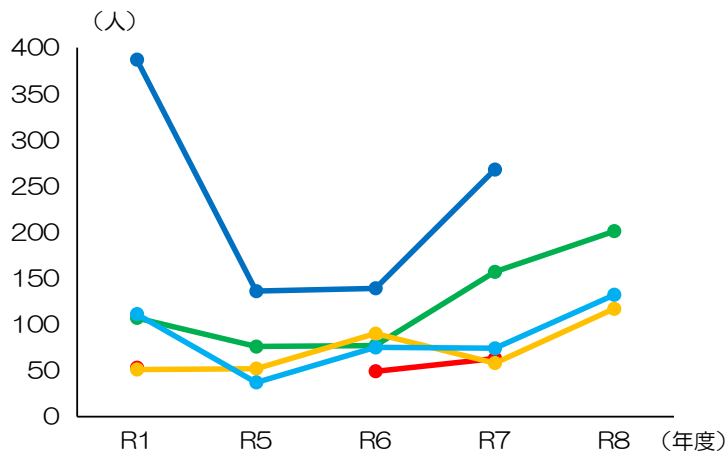
応募状況（全体）

✓ 3事業のいずれについても、**応募人数は前年度から増加し、倍率も上昇している。**

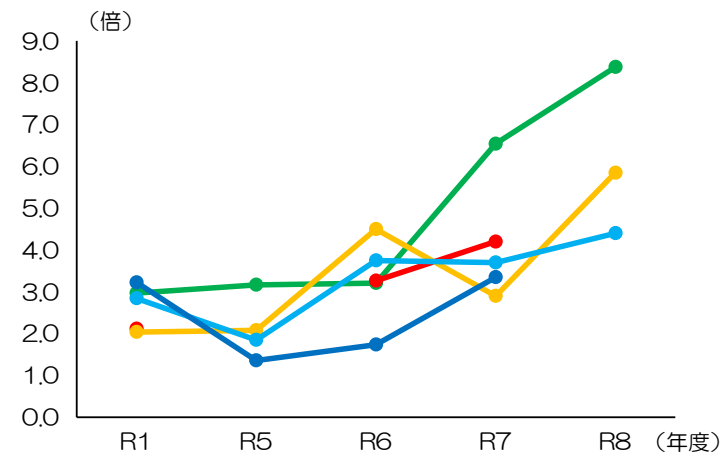
事業名	令和8年度			(参考) 令和7年度		
	応募人数	定員	倍率	応募人数	定員	倍率
国際社会青年育成事業	201	24	8.4倍	157	24	6.5倍
日本・韓国青年親善交流事業	117	20	5.9倍	58	20	2.9倍
「東南アジア青年の船」事業	132	30	4.4倍	74	20	3.8倍
計	450	74	—	289	64	—

※ 令和7年度は第2希望まで併願可（日本・中国青年親善交流事業及び「世界青年の船」事業についても募集あり）。
上記の表では、各事業について第1希望の応募者のみ集計。

（応募者数の推移）



（倍率の推移）

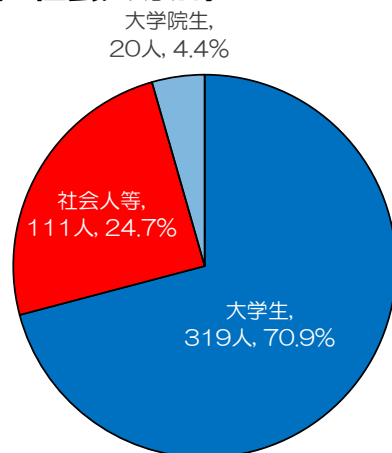


※ 令和2～4年度はオンラインによる交流が中心であったため、掲載していない。

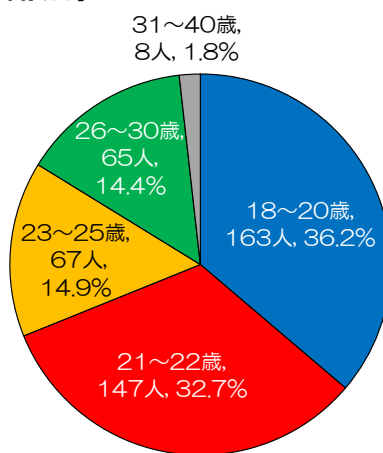
応募状況（属性別）

- ✓ 応募者は過年度と同様、**学生（特に、20歳前後の大学生）**が中心であり、**約7割が女性**となっている。
- ✓ 地域ブロック別にみると、**関東からの応募者が全体の約半数**を占める。

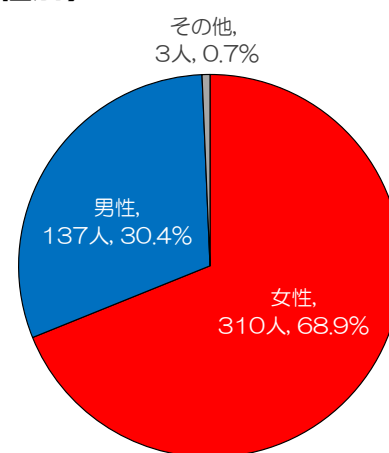
（学生／社会人等別）



（年齢別）



（性別）



（地域ブロック別）

	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	その他	合計
人数 (人)	9	22	221	8	43	68	23	3	35	18	450
割合 (%)	2.0	4.9	49.1	1.8	9.6	15.1	5.1	0.7	7.8	4.0	100.0

※ 地域ブロック別の人数については、住民票所在都道府県ベースで集計。

※ 地域ブロックの区分は、総務省「地域別表章に関するガイドライン」別紙における類型Ⅰに沿ったものとしている。

応募状況（事業別×属性別）

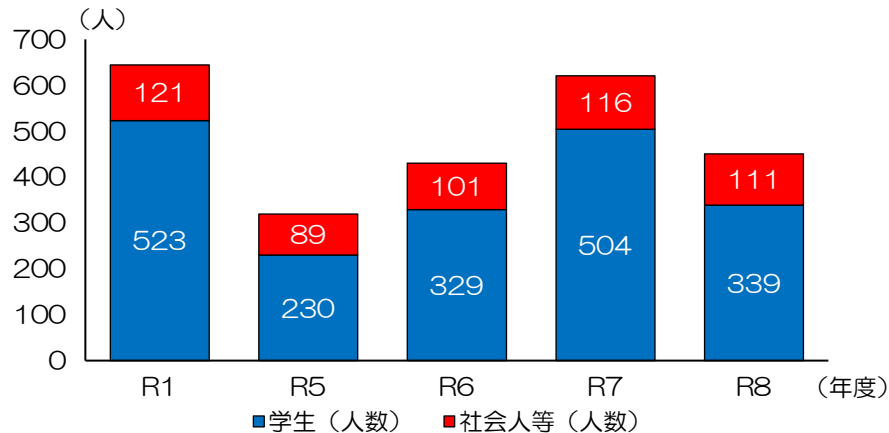
- ✓ 事業別×属性別でみると、いずれの事業も、性別の構成に大きな差は見られない（女性が約7割）。
いずれの事業も応募者は学生が中心。特に日本・韓国青年親善交流事業では約9割が学生。

	全体	性別			職業別	
		男性	女性	その他	学生	社会人等
国際社会青年育成事業	201 うち実務経験者8	63 (31.3%)	137 (68.2%)	1 (0.5%)	144 (71.6%)	57 (28.4%)
日本・韓国青年親善交流事業	117	36 (30.8%)	80 (68.4%)	1 (0.9%)	104 (88.9%)	13 (11.1%)
「東南アジア青年の船」事業	132	38 (28.8%)	93 (70.5%)	1 (0.8%)	91 (68.9%)	41 (31.1%)
計	450	137 (30.4%)	310 (68.9%)	3 (0.7%)	339 (75.3%)	111 (24.7%)

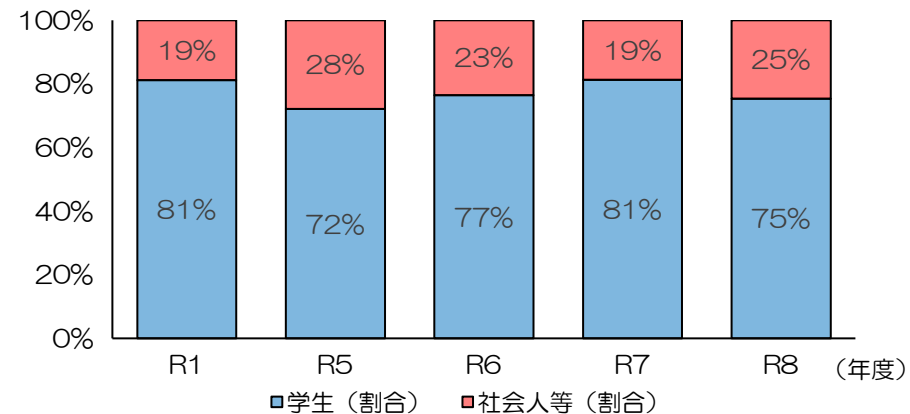
応募状況（社会人等の詳細）

- ✓ 応募事業数の減少もあり、**全体の応募者数は減少した一方で、社会人等の応募は概ね横ばい**となっている。
- ✓ 職種は会社員（39.6%）を中心に、公務員や団体職員など多様な層に広がっている。
- ✓ 業種についても、公務やサービス業を始めとして、幅広い業種から応募がみられる。

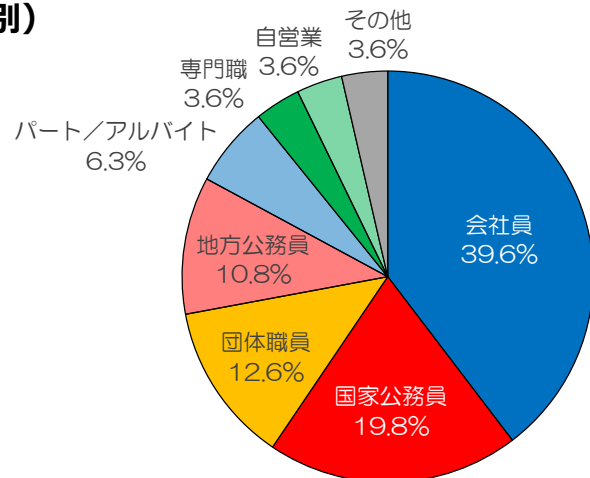
（応募人数の推移）



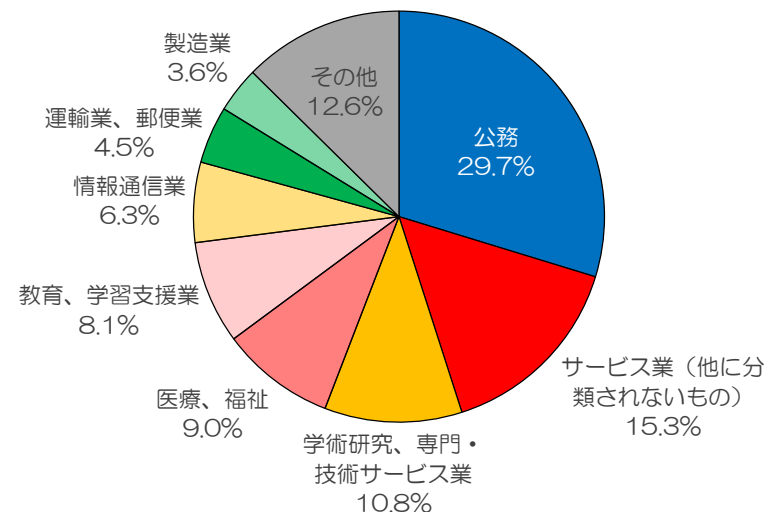
（応募割合の推移）



（職種別）



（業種別）



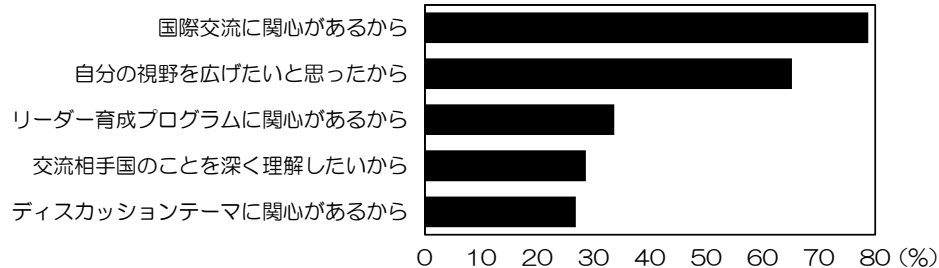
※ 業種別は、日本標準産業分類の大分類ベースで集計。

応募の動機

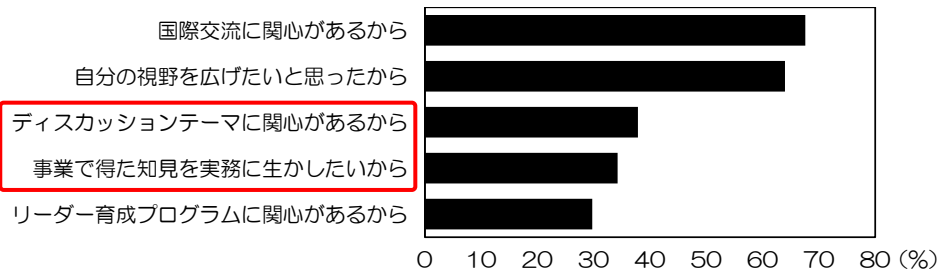
- ✓ 学生／社会人等及び希望事業を問わず、「国際交流に関心がある」と「自分の視野を広げたい」が最多。
- ✓ 社会人等については、「ディスカッションテーマに関心がある」「事業で得た知見を実務に生かしたい」が上位となっている。

(学生／社会人等別)

<学生>

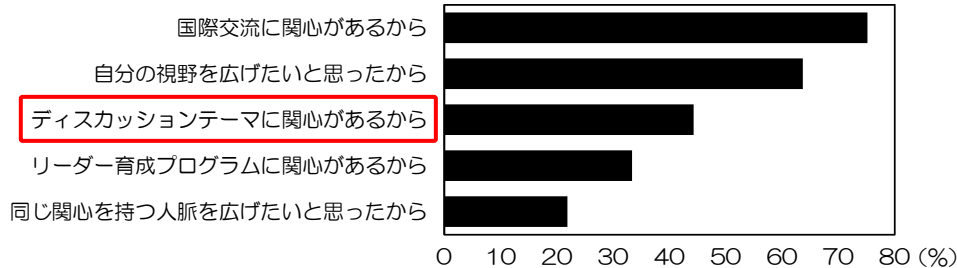


<社会人等>

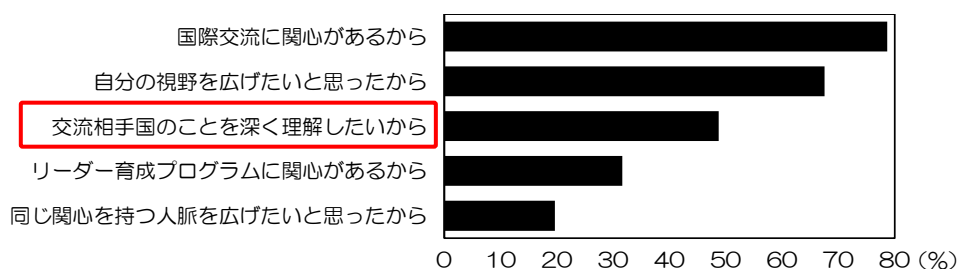


(希望事業別)

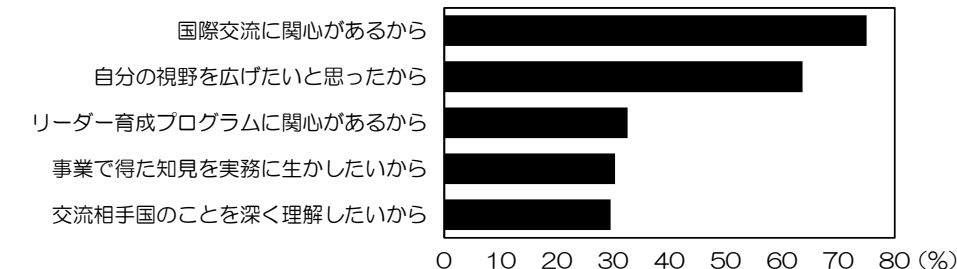
<国際社会青年育成事業>



<日本・韓国青年親善交流事業>



<「東南アジア青年の船」事業>



※ 複数回答可（回答数上限なし）。上位5つの選択肢を掲載。

※ 全ての選択肢は以下。

- ・ 国際交流に関心があるから
- ・ 自分の視野を広げたいと思ったから
- ・ リーダー育成プログラムに関心があるから
- ・ ディスカッションテーマに関心があるから
- ・ 交流相手国のことを深く理解したいから
- ・ 事業で得た知見を実務に生かしたいから
- ・ 同じ関心を持つ人脈を広げたいと思ったから
- ・ 自分の語学力を試したいと思ったから
- ・ キャリアアップに役立つと思ったから
- ・ 海外の友人がほしいと思ったから
- ・ 就職活動に有利になると思ったから